

サボタージュ（ナシヨナリズム、官僚制、経営）を前にしながらもその存続の緊要性を感じている。

もしわれわれとして六八年五月が、体制の危機と大衆のうっせきした渴望の最初の現われであると認めるなら、直接管理を志向する前衛が存在し、明確にして信頼し得る見通しを立て得ることが必要だったのである。

しかし、左派諸集団の失敗を確認するわれわれとしては、前衛を建設するにはそれを自称するのでは足りないことをよく知っている。

客観的に見るとき、フランスにおける前衛はいぜん共産党であるが、その綱領は大衆の直接権力への渴望に対応していないことを立証することが残っており、われわれはこれを立証しなければならぬ。このことは、われわれにとって明白であり、アナキストはいつの日にか必ずや勝利を収めるであろう己れの立場が十分な根拠をもつことを喜びとしているが、勝利を収めることは今、われわれの目標でも意図でもない。さし当りは、最も自覚した闘士から成る「主観的」前衛が存在することだけである。いかにして彼らを組織するかを知らなくてはならない。これには、なお共産党を棄てるべきだとは考えない人々をも含めて、革命家の大部分をいかにして集結するかを知らなくてはならない。

要するに、共産党が大衆と結びついた「客観的」前衛の性格を失うことが必要である。なぜなら、経験は共産党がいまなお大衆を決定的に統制していることを示したからである。これが、今問題の核心である。

✽ ✽ ✽ ✽ ✽ ✽ ✽

## Ⅱ アナルコ・サンディカリストの 自主管理観

ルネ・ベルティエ

この文章は、「サンディカリスト同盟」（六八年五月のあとに建設された革命的サンディカリストの組織）の一闘士によつて作成された。しかし、パリ地区だけに流布されたものであるため、同盟はこれに署名していない。

自主管理の理論を最初にかつ長期にわたつて発展させ、それを行動原理としたのは、ひとりリベルテール（アナキスト）たちであった。今日、この言葉はひどくけがされ、ほとんどの人々が用いるようになり、それを実施する現実が極めて異なるに依り、その本来の意義の多くを失ってしまっている。

「自主管理」とは、何よりも労働者の解放は労働者自身の仕事であるという原則を適用する手段である。このことは、この原則を適用し得る組織の構造が問題であることを意味する。これらの構造は本質上、まず事業の面と同時に居住の場所において、労働者すべての意志を表現することを可能ならしめる基礎的機構である。従つて、アナルコ・サンディカリストによる自主管理の第一の特質は、すでに明らかである。すなわちそれは、社会（事業および地域）の経済的かつ政治的な基本的構造たることである。

自主管理を実施する制度的枠組の基盤となる基礎機構は、労働者が自己の事業、産業ないし居住地域における特殊の問題に関するのに応じ、職業、経済、地域の諸部面で諸々の職業にわたって設けられる。

従って自主管理は、まず「この基礎機構における労働者の直接管理」を意味する。この基礎機構の組織・管理等について労働者が下す決定の様式のちがいは、本質的な重要性はない。それぞれの事業や地域などの特殊な差異は、異なる組織様式を必要とするわけである。ルノーのような企業体は、作業が種々様々であるという客観的な条件の故に、銀行とは組織の仕方を異にするであろう。そこでわれわれの意図は、自主管理の△定型△を提示することではない。

六八年五月に自主管理を△発見△し、スペインのアナルコ・サンディカリストたちが三十年も前に大規模に実践したことを理論化している人々は、誤って企業の自主管理を強調するが、彼らはミクロ経済の水準にとどまっている。

雑誌『自主管理』には、数々の興味ある実例が提供されたが、自主管理体制における社会全般の組織については、ごくわずしか語られていない。

アナルコ・サンディカリズムは当初から、この全般組織を規定することに専ら心を傾け、これを経済と政治との基礎単位のミクロ自主管理ともいえる自主管理以上ではないまでも、これらと同等に重要と考えている。というのは、自主管理にその真の特性を与えるのは、この全般組織だからである。

もしも工場間の関係、工場と産業部門、および経済全体との関

係が同じ原理に従っていないならば、工場が△自主管理△されることにどのような利益があるか。もしもある地域が、地方および国全体と自主管理の関係がないならば、それが自主管理されることにどのような利益があるか。

だが、人はわれわれに言うだろう、国全体を自主管理することなど非常識だと。全産業、まして国全体の自主管理など空想だ！と。

もし全国に拡大された自主管理が、ある場所に道路を建設し、他の場所に堰を設けるのが適切かどうかを決めるため、五千万の人々を一つの公の場所に集めることを意味するならば、その通りである。

これを見て著名な△アナキストたち△は、経済および政治の大単位で字義どおりの△直接民主制△を行うのは不可能であると考へ、共同体の建設を称讃し、ここに人類の将来があると。…われわれとしては、そのような推論は歴史の流れを逆行するものであると考える。しかしこれは、われわれが経済および政治の分散・分権化に反対することを意味するものではなく、まったくその逆である。

#### 連合主義、社会的自主管理の原理

一国の諸事業および諸地域は、どのようにして自主管理の原則を損わずに組織されるか。アナルコ・サンディカリストによると、自主管理体制における社会の全般的組織化は連合主義体制によってのみ可能である。だから、しばしば歪められているこの連合主義の概念について、若干語らなくてはならない。

連合主義は、中央集権主義が予め協議することなしに上から下に機能するのに反し、下から上に向つて機能する意味でこれと対立する。連合主義は、各段階での協議を介して一般的利益を確立するのに対し、中央集権主義は一般的利益を予め決定し、これを討議もせず押しつける。

連合主義体制においては、労働者がその権利の全部または一部を受任者たる個人もしくは集団に委譲するとき、それは必ず永続かつ嚴重なコントロールの下での討議と明確な合意を得たのちに行われる。労働者はいつでも自己の委任を取消し、それを他の者に代えることができる。中央集権主義体制では、たとえそれが民主的であるとしても、底辺は頂点に対してなんら決定的な力をもたない。

受任者は、委任されたことを厳密に履行し、これについて委任者に報告する。委任者は、委任が尊重されたか否か、受任者を承認するか否認するかについて語る一切の権利を保有する。

連合主義の目的は、労働者たち自身が表明する彼らの集団的利益を代表するところにある。連合主義は、底辺から頂点へと、頂点から底辺へと二つの流れの力を借りて機能する。前の流れは討議と決定であり、あとの流れは実行である。

討議は、特殊の利害を除去し、底辺細胞の指導者に一般的利益を明白にし、ついで同じことを段階を追って頂点にまで行うことを目的とする。このようにして底辺から頂点まで、集団の考え、共同利益、決定を表明する一続きの審議機構が作られることにな

る。上昇運動によって一般的利益、諸原則、従うべき戦術、また大

体において社会組織の一般的様式が決められ得るならば、下降運動はそれらをすべての部面において具体化することを可能にする。

下位の諸段階の意見を検討して表明する頂点は、底辺の意見の発現であるが故に、最高機関である大会の決議に従つて活動の一般方式を指示し、それを直接下位の諸段階や地方に伝達する。地方は、それを構成する諸地域に対して同じことを行い、それらに地方的活動の一般的枠組を与え、これに各地域の必要事項を付加する。同様の手続きは、地域にも適用される。

従つて下降の流れは実施であり、これは十分に確定されたその枠組の中での各段階における労働者の大会、または集会で採択された決議を経て行われる。このことは、いくつかの事柄を意味し、労働組合においては次の通りである。

1 個人は、自己の労働組合の中で自由であり、あらゆる場合に自己の意見を表明し、すべての問題についての見解を述べることができる。それに対する条件は、組合総会において審議の末、採択された決議を尊重することである。

2 労働組合は、その地域連合、地方連合、産業連合の中で自由であり、その唯一の条件は、各組織が自己の見解を表明したあとで採択された決議を尊重し実行することである。

3 同じ自由は、同一の条件で、総連合また場合によってはインターナショナルのなかで、地域連合、地方連合、産業連合についても認められる。

かくして、アナルコ・サンディカリズムや革命的サンディカリズムを中傷する人々のいうのとは反対にわれわれは、職種、同業、地域の問題をはるかに越えていることがわかる。自主管理は、そ

れが資本主義の枠の中で実施され、経済生活および社会生活のすべての面に一般化されない場合には、存立しまた存続することはできない。それは、中央集権化されたあらゆる体制や国家とは両立し得ないからである。

しかしまた、社会の経済・政治組織は一国のあらゆる活動の連合、国際的レヴェルにまで拡大される連合を含むことを知らなくはならない。この意味で連合主義は、自主管理の必然的補足である。

#### 連合主義的自主管理の諸機構

アナルコ・サンディカリストの見解では、連合制は垂直的であると共に水平的である。垂直の面では、各事業体は同じ産業部門の他の事業体と連合して全国レヴェルにまで達し、相互に連合せる諸産業連合は総連合を結成する。

水平の面では、同一産業部門の各事業体が地域の他の事業体と連合して地域連合を構成し、諸地域連合は同一地方で互いに連合して地方連合を形成し、諸地方連合は相互に連合して総連合を形成する。このようにして、事業体において、産業部門において、経済全体において、また地域、地方、一国のいずれにおいて、経済・政治・社会生活のすべての部面が労働者および彼らの階級組織のコントロールの下に置かれることになる。諸々の決定がなされるのはこの組織においてであり、また一国の経済・政治活動に関する諸々の決定が実施されるのも、この組織によってである。

：：アナルコ・サンディカリズムと革命的サンディカリズムは、

労働組合こそはプロレタリアートの階級組織であり、一般には政党に帰属せしめられている社会組織化の役割も、労働組合に復帰すべきものと考えられる。従って、アナルコ・サンディカリズムは政党の原理そのものに全的に反対である。またこのタイプのサンディカリズムが、現存の伝統的労働組合とあまり共通点のないことはいうまでもない。

われわれの考える自主管理は、労働組合の枠自体の中で行われ、それに対抗するものではない。労働組合は、自主管理が全国的さらに国際的な範囲をもつことを可能にする機構にはかならない。労働組合は究局においては、労働者評議会の連合体にはかならない。本質的な相違は、労働組合は資本主義社会のなかに存在し、労働者の防衛機関となっており、そのなかで労働者は共同管理や自主管理を準備することにある。従って労働組合と労働者評議会との間にはなんらの不両立もない。

#### 職場委員会

各職場は、現にイタリアの金属加工業で行われたように、労働者二十ないし五十人に一人の割合で職場委員を選出する。いつでもリコールできるこれら委員は、組合を全面的に代表する。彼らの任務は、自己の職場における労働条件を分析し、労働者と共に労働基準を確定し、労働組織について労働者の提起するすべての問題を明記して工場評議会に提出することである。職場委員会は、労働者の権利の適用と保護に責任を負うものである。

労働者が労働条件を定め、従うべき経済政策を決定し、事業の管理に当る専門的部門を選定するのは、職場、工場および労働組

合の総会においてである。

#### 工場評議会

職場代表者が集って工場評議会を構成する。工場評議会は、事業体のすべての部門の代表者によって構成される。工場評議会は、事業体における労働組合の本質的機関であり、個々の集団の利害を全体の運動の戦略に結合して、労働者の様々な要求を政治的に総合することができなくてはならない。これは、事業体の労働者の利益を代表すると共にその達成機関である。

工場評議会は、仕事を各職場に割りあて、その実施を確保し、当該産業の労働組合の指示に従って、必要物資の補給、輸送に当るものである。

職場間の連繫を確立し、労働を可能な最良の条件で組織することなども工場評議会の役目である。

この点で最も重要な一つの問題が提起される。すなわち、生産の基礎細胞は何かという問題である。職場委員会か、工場評議会か、産業の労働組合か。アナルコ・サンディカリストにとって基礎細胞は産業の労働組合である。同一地域、同一産業のあらゆる工場の全職場の労働者全体から構成されている（例えば、ある都市の運輸労働組合のように）労働組合こそは、一地域の生産を組織し管理するのに最も適している。地域連合、地域経済評議会をその専門機関において、当該産業の労働者を代表するのは労働組合である。

これに反して、一産業部門またはこの部門の一部における特殊的な工場評議会および職場委員会は、産業全体を組織することも、

同一産業の属する地域のすべての工場間の必要な連繫を確保することもできない。それらの活動は、不可避的に自己の職場または工場に限局される。だからこそ、産業の諸労働組合を横断して工場評議会連合が組織されるわけである。

効率上の理由のほかにアナルコ・サンディカリストは、産業労働組合を生産の基礎組織と考え、一切の協調組合主義と、労働者に現われることのある自分たちを集団的ではなく、個人的にその事業の所有者と考える一切の傾向を避けるといふ心遣いをも動機とする。また、異なる事業体の労働者間の競争を避けることも動機の一つである。

#### 産業労働組合

地域の各事業体の諸活動、原料供給、貯蔵、輸送等々を調整することが必要である。産業労働組合の現状自体やその構成も、それが地域の経済組織において果たすべき役割を指し示している。然るべき共同の事務所によって分配や交換を行うため、産業生産を地域連合の手に戻すことをするのも労働組合である。

#### 地域連合

これは生産の全面的組織であり、その活動分野が政治組織であるコミュニンの範囲を規定する。その役割は、地域の全生産を指導し管理し、労働経済評議会によって定められたプログラムに従って生産を営ましめるにある。この評議会は、諸産業連合の代表者をメンバーとする総連合組織であり、その役割は専ら技術的である。

地域連合は、その大会に集る諸労働組合の指名する評議会によって管理される。この管理は、労働組合の直接の代表者からなる委員会の頻繁な定期的監督を受ける。

地域連合は、地域のすべての労働組合の間の連繫を確保し、それらの活動を調整する。地域組織の全体制は、この連繫にかかっている。

#### 地方連合

これは、その活動分野において地域連合同じ役割を果たすが、その範囲はより広大である。地域連合の代表者からなる地方連合委員会は、産業の地方連合の協力の下に、地方的生産のすべての組織を調整・指導し、「労働経済評議会」の指示に従って生産を営む役割を担当する。

#### 全国組織

産業連合は、経済部門を同一とするすべての労働組合により、全国的に構成される。従ってそれは、各自の産業においてその生産能力、資材の一般状況、必要物資輸入の重要度、可能な輸出の重要度を知ることができる。各産業連合の代表者は一体となって「労働経済評議会」を結成し、この評議会が諸々の経済・社会組織に、すべての部面および領域にわたって一切の必要な資材を供給する。

「労働経済評議会」は、生産、消費および交換に関するすべての資料、民主的連合主義の手續きにより下位の全段階から提供される資料を保有し、然るべき種々の部局の協力を得て地方に対し

て産業別に生産を指示し、第一次食料品とその輸出入を組織化することが可能であろう。

「労働経済評議会」は、その「総連合」のコントロールの下にあって、ひとり労働組合にのみ責任を負う。それはまた、地方の経済評議会に情報を提供し、この評議会は地方の評議会に、地方評議会は労働組合に労働を割り当てるであろう。

この説明は、不変でも完全なものでもない。詳しく知ろうとする者たちには多くの点が未解決である。これに反し、マルクス主義の伝統に従って考える人々は、われわれの説明には誇張があるというかも知れない。

しかし、われわれが示したのは処方箋ではない。われわれは、自己の方式が提起する諸問題を十分に意識している。われわれが説明しようとするのは、紙の上でのみ完全であるような方式ではない。

今日、自主管理を擁護する知識人たちがさえ、スペインのアナルコ・サンディカリストたちが多くの州で工業および農業を組織し、戦争状況を考慮するとき異論の余地はない経済的成果を収めたことを余りにも全く無視している。

自主管理をお手のものとし、それについての経験をかくも好んで口にするC.F.D.T. (フランス民主労働総連合) においても、実際には誰もスペインの革命的自主管理について語りはしなかった。従って、われわれが言及する経験を知らないか、あるいはそれを装うとき、われわれを紙上の自主管理、要するにユートピア(空想)をこととするものと非難するのは容易である。スペインの革命的自主管理に対する沈黙の真の陰謀は、大部分この経験がマ

ルクス主義、特にレーニン主義のあらゆる予想、別して労働組合は社会組織化を担当することはできないとした事実に対する全くの歴史的否認であるという事実によって説明される。

かくして、何一つわれわれが考え出したことはない。われわれはただ、当時組合員二百万を致した強大なアナルコ・サンディカリスト組織であるCNTによって管理された経済組織の計画を述べようとしたのである。

今プログラムを作成することはわれわれの意図ではない。われわれは今日フランスに、三十年前スペインで有効であったことをあてはめようとは思わない。それに、現在の政治・経済的状况の枠の中で採用すべき方式について、われわれの戦術的見解を説明するのはここでの主題の範囲にはない。

しかしわれわれは、建設するためには建設しようとするもの事に関し、一般的にもせよ、一定の理念をもたなくてはならないと考える。労働者は革命に先立ってこのことをよく考えれば考えるほど、大々的な変革を加えなくてはならぬ場合でさえ、無駄にする時間が少なくなるであろう。自主管理への準備を整えずして自主管理は可能ではない。その一例として「サンディカリスト同盟」宣言の一節を引くとして。

「筋肉労働者および知識労働者が、工業、農業および公益事業を、それぞれの多様性と機能に適応した規範に従って直接管理するよう準備するには、……労働者の管理ないし自主管理能力の発達を必要とする。

そしてまたこの意味で、同盟の仕事の一部は、そのメンバーおよび可能な限り多数の労働者に社会・経済に関する知識を発達さ

せることであろう。」

われわれが称讃する自主管理体制は、今日の現実に、労働運動にその根源を有する。われわれはただ、組織問題についての経験を観察し分析しただけである。これから出発してこそ、あり得べき自主管理についてその大綱を決定することができる。自主管理の一般的構造もその組織の枠も、すでに労働者階級の経験と知識のうちに存在する。それ以外に自主管理と社会主義を探するのは空想である。

われわれが決定すべき目標の一つは、労働者階級に自主管理の一般的形態が彼らの現実の行動、および組織の形態から引出され得ることを指し示すことにある。自主管理を実行し得る枠組はすでに存在しているが、しかしそれは回転が緩慢になりがちな機械のようなものとして存在する。むしろ労働運動における反対勢力が回転を緩慢にするように務めているのである。

戦闘的なアナルコ・サンディカリストおよび革命的サンディカリストの役割は、この既得の特質的構造により大きな実践的および理論的役割を付与し、その適用範囲を社会生活のすべての領域に広げることである。必要なのは、労働組合にある質的に異なる役割を与え、何ごとも労働組合と無関係ではないという原則を明らかにすることである。

われわれの考える労働者自主管理の最良の、また（本意ながら）最良の擁護でもある定義を下したのはレーニンであって、しかもそれは全面的に危険を含んでいることを示すものである。

「国家を労働組合化すること、これは「全国最高経済評議会」という装置を、それぞれの労働組合の手中にある些々たる断片に置

き替えることに等しい。

サンディカリズムは、諸々の産業部門の管理を、……党に属さない異なる生産に分割された労働者大衆に任せものである。……

もしも労働組合、すなわち十分の九を占める党外労働者が、……産業管理を指示するならば、党は何の役に立つのか。」

(一九二一・一・一九「党の危機」)

### III D・A・デ・サンティリヤンの

#### 絶対自由共産主義の

#### 科学的概念

アントニオ・エロルサ

一九三二年以来、アイエゴ・アパド・デ・サンティリヤンが提唱してきたプログラムは、アナキズムの諸前提と計画経済との困難な調和に役立つことのできる、全国レヴェルでの経済組織化の計画を指すものであることは明白である。彼は、アナキズムとは資本主義や人間の支配を物の管理に代えることであるという考えを出発点としている。そしてこういう。「だが、何をもちて国家に代えて代えるべきなのか。この問題はいつも耳にしているし、われわれ自身もそれを提起している。人間による人間の支配を事物の管理に代えなくてはならない。」

この考えの発展が、サンティリヤンにおいては、産業と地域という二つの本質的な軸から出発する連合主義組織に帰着し、この

組織は工場評議会から「社会主義経済全国評議会」へとつながり、計画化の中心機関となるべきものである。

雑誌「新時代」の一九三四年五月五日付初号でサンティリヤンは、資本主義の発展自体が、特に「私的資本主義の本質的要素である」経済的個人主義と両立し得なくなり、計画化の必要を示している」と主張し、結論的にこうつけ加えている。「だが、もし新計画経済が国家官僚の活動ではなく、労働者大衆と技術者の活動から直接出発するならば、われわれは目標に大いに近づくことになるであろう。」……技術の発達には、アナキズムの諸計画自体の条件および制限をなし、それを考慮しないすべての計画を実行不可能にする。経済生活は調整の方向に向っており、個々の経済主体の下す決定の役割は重要さをますます失いつつある。それと言及はしていないにせよ、この立場は《自由コミューン》のごとき概念に基づくあらゆる理論的計画の拒否を意味する。生産者の個人的な好みは現代の経済では、例えば職人の生産におけるほどの影響力をもたない。……これは確かに残念なことであるが、現代の生活においては実際に起っていることであつて、われわれは生活の主体者となり、それを直接管理しなければならぬ。このよくな現実に対して、経済の一般的傾向に多少対応する考えではなく、われわれを宿命的に少しでも職人的生産に引き戻すような労働のタイプを対立させることは、砂漠で説教し、狂人を気どるものであろう。

従つて、少くとも革命の第一段階においては、社会主義化された経済の統一的指導を承認することが必要である。

《プログラムを欠くアナキズム》の擁護者たちに反対するサン